

会社の沿革 Company History



1905年 (明治38年) 愛知県刈谷市において農機具の生産を始め、近藤農産具製作所として発足する。

1941年 (昭和16年) 有松絞りに代表される着物絞りの一種、クモ絞り機械を製作し、絞りの生産を始める。

1943年 (昭和18年) 戦時体制により豊川海軍工廠および、中島飛行機の協力工場として、航空機の部品製造を始める。



1951年 (昭和26年) スチールパイプの曲げ加工技術を開発し、オートバイのハンドル、エキゾーストパイプの製造を始める。
戦後のオートバイブームの到来により、多くのメーカーの製造を請け負う。
(ホンダ、ヤマハ、スズキ、目黒、陸王等)



1953年 (昭和28年) 2人りの小型自動車を試作する。スチールパイプを使い、金属イスの製造を始める。
(日本のスチールパイプイスのパイオニアとして戦後の復興に寄与した)

1969年 (昭和44年) 今まで、立って遊んでいたパチンコに、日本で初めて座って遊ぶパチンコイスを考案し、パチンコイスの製造を始める。以後全国に広がっていく。

1972年 (昭和47年) 社名を名古屋オート工業から、名古屋椅子工業に変更する。

1975年 (昭和50年) ホテル、レストラン、喫茶店に使われる業務用家具を開発し、業務用イスの専門メーカーになる。



1988年 (昭和63年) フィンランドの建築家、エリエル・サーリネンの家具の輸入を始める。

1992年 (平成4年) フィンランドのエーロ・アールニオのモダン家具の輸入を始める。

1993年 (平成5年) ブランド名を“オート”から“ナゼロ”に変更する。

1996年 (平成8年) 名古屋大学の柳澤忠教授のもと、病院、高齢者のための家具開発を行う。
健康デザイン研究会が発足する。



2000年 (平成12年) AIA(アメリカ建築家協会)病院部会、バンクーバー国際会議に出席する。
東京大学長澤泰先生、テキサス大学ジョージ・マン先生に会う。以後指導を受ける。

2004年 (平成16年) 創業100周年を記念して、社名を名古屋椅子工業株式会社からナゼロ株式会社へ改める。

2009年 (平成21年) 福岡山王病院の家具製作依頼を高木理事長から受け、“スリーパーチェア”を開発する。
同時に特許を取得する。これ以後、多くの病室で採用される。
(東京女子医科大学病院、足利赤十字病院、慶應義塾大学病院、筑波大学付属病院等)



2012年 (平成24年) ミサワホームグループ、株式会社マザアズと高齢者のためのイス、“ホールド・チェア”を開発する。

2016年 (平成28年) I F H E 国際病院設備学会、ハーグ世界会議に出席する。
この会議で、足利赤十字病院は世界で第1位の病院に輝いた。



2019年 (平成31年) 虎の門病院、国立循環器病研究センターに、家具を納入する。

2023年 (令和5年) イスを製造して70年をむかえる。

